

伊豆東岸定置網における主要魚種の

平成29年下半期の漁況経過と平成30年上半期の漁況予測

1 平成29年下半期(7~12月)の経過

(1) 総漁獲量

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)における平成29年7~12月の魚種別月別漁獲量を表1に示しました。総漁獲量は1,332トンで、前年(1,160トン)の1.2倍、平年(昭和57~平成28年の平均:1,893トン)の70%でした。

(2) 魚種別漁獲量

(ア) ブリ

ブリ(銘柄:ぶり、わらさ、いなだ、わかし)の漁獲量は158トンで、前年の3.2倍、平年の4.5倍でした。銘柄別にみると、ぶりは0.6トンで、前年の29%、平年の7%でした。なお、尾数ベースでは47尾でした。わらさは58.8トンで、前年の4.3倍、平年の3.1倍でした。いなだは9.6トンで、前年の1.1倍、平年の35%でした。わかしは88.9トンで、前年の3.2倍、平年の5.0倍と好調でした。漁獲されたものは、7月は尾叉長70~75cmのわらさ銘柄主体、8~12月は30~45cmのわかし銘柄主体でした。

(イ) マアジ

マアジ(じんだ:小型当歳魚を除く)の漁獲量は39.3トンと平年を大きく下回りましたが(平年比29%)、前年を上回りました(前年比1.4倍)。漁獲されたマアジは、7月は20~25cmの1歳魚(2016年級群)主体、8月以降は0歳魚(2017年級群)主体でした。0歳魚は、7月は尾叉長11~13cmで、12月には19cm前後に成長しました。また、30cm前後の2歳魚以上の大型魚も混じりました。

じんだの漁獲量は56kgと、前年、平年を大きく下回り(前年比20%、平年比1%)、極めて低調な漁獲が継続しています。

(ウ) サバ類

ゴマサバの漁獲量は334トンで、前年の92%、平年の57%でした。月別にみると7、10月は前年・平年を上回りましたが、8、9月は前年、平年を下回る低調な漁獲でした。漁獲されたゴマサバは、尾叉長30~35cmの成魚主体であり、25cm未満の当歳魚も混じりました。

一方、マサバの漁獲量は8.4トンで、前年の86%、平年の28%でした。月別にみると7~11月は平年を下回りましたが、12月は平年比1.7倍でした。漁獲さ

れたマサバは、7～8月は尾叉長20cm前後の当歳魚主体であり、9月以降は30cm以上の成魚主体でした。

サバッコの漁獲量は6.2トンで、平年の14%でした。月別に見ると7月に最も漁獲量が多く、マサバ・ゴマサバの比率は、ほぼ同程度でした（市場調査時の測定尾数より推測）。

表1 伊豆東岸大型定置7か統月別漁獲統計 (kg)

魚種名(銘柄)	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
ブリ(ぶり)	23	14	62	167	163	212	641
ブリ(わらさ)	53,252	806	1,326	965	1,161	1,245	58,755
ブリ(いなだ)	1,740	442	2,106	1,243	1,474	2,642	9,647
ブリ(わかし)	4,050	13,705	29,602	15,739	18,113	7,696	88,905
ヒラマサ	369	446	258	28	170	49	1,320
カンパチ	739	1,001	1,255	6,741	2,881	1,549	14,166
マサバ	539	272	386	1,126	232	5,874	8,429
ゴマサバ	97,584	10,419	36,260	67,236	17,838	10,915	240,252
サバ類・大中小	23,665	4,360	15,257	38,017	7,675	4,872	93,846
サバッコ	4,137	139	0	0	906	972	6,154
マイワシ	64,465	14,997	800	4	674	1,343	82,283
カタクチイワシ	64,022	9,462	340	0	0	20	73,844
ウルメイワシ	3,576	11,708	2,820	5,583	2,080	2,405	28,172
マアジ(まあじ)	10,132	2,707	1,511	5,909	7,670	2,359	30,288
マアジ(まあじ・小)	461	1,044	798	2,295	2,746	1,634	8,978
マアジ(じんだ)	14	39	0	0	1	2	56
ヤマトカマス	2,020	24,352	99,603	26,553	4,129	322	156,979
オアカモロ	3,929	22,078	12,510	24,574	17,607	12,654	93,352
イサキ	5,309	6,380	7,133	40,436	12,269	2,294	73,821
マルソウダ	7,345	12,940	15,466	2,274	3,167	7,313	48,505
シイラ	5,725	11,563	12,390	2,939	1,647	68	34,332
アカカマス	114	365	12,430	3,301	10,173	1,302	27,685
モロ	671	3,303	4,685	2,998	3,578	659	15,894
カツオ	4,335	3,430	3,486	36	18	11	11,316
ヒラソウダ	541	1,874	3,128	760	402	4,561	11,266
イボダイ	38	23	23	4,271	5,649	33	10,037
フグ類	74	46	561	4,234	2,221	2,515	9,651
トビウオ	6,624	904	491	330	203	50	8,602
ムツ	1,619	1,688	1,717	553	1,189	606	7,372
サンマ	0	0	22	0	0	7,152	7,174
カワハギ	40	30	247	3,417	2,306	867	6,907
メアジ	137	74	111	578	498	4,381	5,779
キハダ	2,074	1,970	131	26	582	0	4,783
ホウボウ	178	194	640	970	1,823	260	4,065
スルメイカ	4,785	904	619	238	829	3,045	10,420
その他	4,510	3,632	5,328	10,406	8,502	6,495	38,873
総計	378,836	167,311	273,502	273,947	140,576	98,377	1,332,549

2 主要魚種の平成 30 年上半期(1～6月)の見通し

主要魚種の平成 30 年上半期の見通しについて、12 月に行われた、太平洋いわし類マアジさば類長期漁海況予報会議および相模湾定置網漁海況予測協議会での協議事項をもとに取りまとめた結果について表 2 に示します。

表 2 伊豆東岸大型定置における平成 30 年上半期の漁況

マアジ	漁獲は前年を上回るが、低調な漁獲は継続する。主体は尾叉長17～21cmの1歳魚。
マサバ	漁獲は前年並。主体は30～35cmの3歳以上。
ゴマサバ	漁獲は前年を下回る。主体は30～35cmの3歳以上。
マイワシ	漁獲は前年並み。主体は体長13～15cmの1歳魚。
カタクチイワシ	漁獲は前年並み。体長9～11cmの1歳魚主体に、体長12～14cmの2歳魚が混じる。
ブリ	漁獲は前年並み。但し海況条件により増減の可能性あり。ぶり・わらさ銘柄主体。

マアジ

近年、マアジ資源は低調に推移しています。伊豆東岸定置網における漁獲量についても、2010 年頃より減少傾向で推移しており、2017 年は、不漁であった 1980 年代と同レベルの低水準となっています。伊豆東岸定置網における 1～6 月のマアジ漁獲量は、前年の 4～11 月のマアジ漁獲量と比例関係にあります。前年は漁獲量がやや多かったことから、今期は低調ながらも前年を上回る漁獲となると予測しました。また、漁獲サイズは 17～21cm の 1 歳魚主体と考えられます。

マサバ

マサバ資源は近年増加傾向で推移しています。2001 年以降の伊豆東岸定置網における 1～6 月のマサバは、概ね 30～35cm の 3 歳以上の成魚主体に漁獲されています。平成 29 年度第 2 回長期漁海況予報では、「伊豆諸島周辺海域における 3 歳魚は前年を上回る、4 歳魚は前年を下回る、5 歳魚以上は前年を上回る、マサバとしては前年並み」と予測されていることから、今期の伊豆東岸定置網における漁獲量は、前年並と予測しました。

ゴマサバ

ゴマサバ資源は近年減少傾向で推移しています。2001年以降の伊豆東岸定置網における1～6月のゴマサバは、3～4月を除き、概ね30～35cmの3歳以上の成魚主体に漁獲されています。平成29年度第2回長期漁海況予報では、「ゴマサバ太平洋系群の伊豆諸島周辺海域における3歳魚の来遊量は前年を下回る」と予測されていることから、今期の伊豆東岸定置網における漁獲量は、前年を下回ると予測しました。

マイワシ

マイワシ資源は近年高水準で推移しており、伊豆東岸定置網において主体となっている1歳魚(13～15cm)の資源量は、多いと考えられています。また、中～大羽サイズである2～3歳魚も資源量が多いと考えられていますが、相模湾への来遊は海況の影響が大きく、来遊を予測するのは難しい状況にあります。以上から、伊豆東岸定置網における漁獲量は前年並みと予測しました。

カタクチイワシ

カタクチイワシ資源は近年減少傾向で推移しています。相模湾に分布するカタクチイワシは、沖合回遊群と沿岸発生群があり、沖合回遊群(1歳魚:9～11cm、2歳魚:12～14cm)は資源量が少なく相模湾に来遊する可能性は低いものの、沿岸発生群(1歳魚)の資源量は、春シラスの漁獲量が平年を上回っており、少なくないと考えられるため、漁獲量は前年並と予測しました。

ブリ

ブリ資源は近年高水準で推移しており、伊豆東岸定置網における漁獲量も高い水準にあります。ブリ太平洋系群資源量と伊豆東岸大型定置網のぶり・わらさ銘柄漁獲量は比例関係にあり、平成29年度資源評価では「資源水準は高位、動向は横ばい」としていることから、今期の漁獲量(ぶり、わらさ銘柄主体)は前年並と予測しました。但し、黒潮の離接岸や水温分布等の海況条件により、ブリの回遊パターンは変化する可能性があり、それにより伊豆東岸定置網への入網量は増減すると考えられます。

(鈴木勇己)